

令和 8 年度 第 1 回東近江市地域公共交通会議要旨

令和 8 年 6 月 29 日（木）午前 10 時から正午

東近江市役所 317、318 会議室

- 出席者：南川会長、逢委員、喜多畑委員、三木氏（森安委員代理）、西山委員、辻久氏（山本委員代理）、廣田委員、森野委員、夏原委員、瀧村委員、野村委員、松尾委員、西村氏・近藤氏（藤井委員代理）、塚田氏（辰野委員代理）、服部委員、山本委員、今若委員、糸委員、山口委員、田井中委員、中島委員、上田委員、深見委員
- 随行者：滋賀運輸支局 若井氏、近江タクシー(株) 山路氏、近江鉄道(株) 岡村氏
- 事務局：中村都市整備部長、高木都市整備部次長、公共交通政策課 山田管理監、澤参事、小杉係長、村田主任
- 欠席者：西村副会長、塩見委員、櫛田委員

1 開会（進行：山田管理監）

2 挨拶（小椋市長）

3 東近江市地域公共交通会議について（山田管理監）

4 会長、副会長及び監査委員選出

事務局一任の声により、事務局案として会長に南川委員、副会長に西村委員、監査委員に田井中委員及び山口委員を提案。異議なしの声により承認。以降、南川会長が議長となり議事を進行

5 議事

(1) 報告事項

- ① 近江鉄道線ダイヤ改正に伴うちょこっとバスダイヤの一部改正について事務局から資料 1 に基づき説明

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

- ② 令和 7 年度東近江市コミュニティバス利用状況等について事務局から資料 2 に基づき説明

【意見・質問】

委員 びわこ学院大学はちょこっとタクシー路線が走っていると思うが、何路線か。

事務局 ちょこっとタクシー平田線である。

委員 びわこ学院大学の学生はちょこっとタクシーの存在をあまり知らないと聞いている。知っていれば、下宿している学生や通学している学生も利用できると思われるので、市として周知すべきと考える。

事務局 どのような周知方法があるのかななどを模索して検討したい。

委員 今回、令和7年度の実績等を報告いただいているが、本来それから何が課題でどのように解決しようと考えているかを説明いただき、議論する必要があると考える。

事務局 昨年度、今年度と地域公共交通計画を見直すに当たって、運行事業者のヒアリングや市民アンケート等を行っており、今は報告事項としているが、今後課題等を説明させていただくなかで、御議論いただきたいと考えている。

会長 今年度は地域公共交通計画の見直しのため、地域公共交通会議を少なくとも3回は行う。令和7年度の状況を報告させていただいているが、今回はこの資料を委員の皆様にしかりと把握していただき、次回以降に公共交通計画をどのように見直していくかを議論していきたいと考えている。

③ 令和7年度近江鉄道路線バス及び近江鉄道線の利用状況について

近江鉄道株式会社から資料3-1, 3-2に基づき説明

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

④ 滋賀地域交通計画の策定について

滋賀県から資料4に基づき説明

【意見・質問】

委員 県が考えている交通計画と市町が考える施策が連携できるかというのがポイントであり、施策を列挙されているが、市町との整合性をとることが不可欠であると考えている。移動は市域を越えたり、圏域を越えたりする移動もあり、市町だけで完結するものばかりだけではないので、県としてしっかりととりまとめの役割を果たし連携することをお願いしたい。

滋賀県 市町や交通事業者としっかりと連携を取りながら取り組んでいきたいと考えている。

委員 施策の中で、「デマンド交通の充実と高度化」と記載されているが、具体的にどのような取組を考えているか教えていただきたい。

滋賀県 2026年度は制度設計フェーズと位置付けており、バス等補助やモデ

ル事業の実施を行うとともに、市町との意見交換を行いながら今後検討していきたい。こういった形になるかという具体的な部分については決まっていないが、今年度の県の補助としては運行時間の延長、行政区域を越えた停留所設置、予約時間の改善など利用者の利便性向上につながる取組を支援する予定である。

事務局 県の高度化の補助について、本市も活用したかったが制度設計が2、3月になってからであり予算要求の兼ね合いもあり活用できなかった。連携をされるということであれば、事前に情報交換するなど改善が必要であるとする。

滋賀県 そのとおりであり、今後連携を密にしていきたい。

⑤ 東近江市地域公共交通計画中間見直しに向けた取組状況について

事務局から資料5に基づき説明

【意見・質問】

委員 この中間見直しに向けた取組状況については、県に報告はされているのか。

事務局 今の取組状況について報告はしていないが、今後の計画や施策の立案等では県の計画との整合性が必要だと考えているので連携していく。

滋賀県 地域公共交通会議をはじめ、市町と情報共有する場を設けて新たな取組についても連携しながら進めていきたいと考えている。

委員 モビリティマネジメント教育が大切だと考えており、過去に県と連携しながら小学生への推進をプロジェクトとして取り組んだが、中学生には拡大できないのか。

事務局 今年度、県と連携して永源寺中学校でのモビリティマネジメント教育を行う予定である。

委員 過去から中学生へのモビリティマネジメント教育の必要性を訴えているが、なかなか前に進まない原因として、小学生は交通環境学習とカリキュラムがマッチングする部分があるが、中学生については交通環境学習とカリキュラムがうまく一致しないようでそこが課題である。市町の交通担当部局からも中学校に働きかけてもらえたらと思う。

会長 公共交通計画の中間見直しに向けた参考資料をつけさせていただいているので、この中身を熟読していただき、今後活発な議論をしていきたいと考えている。6月議会でも公共交通に対して多くの質問をいただき、「誰もが利用しやすい自由に動ける」利便性の向上を求めるものが多くあった。事務局、公共交通の見直しを行う中で、特に課

題と思われるものは何か。

事務局 6月議会では、ちょこっとタクシーのエリア外運行をはじめとする拡充について御質問を多くいただいた。ニーズについて理解はしているが、ちょこっとタクシーは近江鉄道や幹線交通を補完するための位置づけであり、利便性向上のみを目的としてちょこっとタクシーのエリア外運行等を拡充するということは、市の財政負担の増加だけでなく、民間交通事業者の経営を圧迫したり地域公共交通に影響を及ぼす懸念がある。ちょこっとタクシーの運行経費は年々増加するとともに、収支率が6.6%まで落ち込んでいる。タクシーの運賃改定もあるが、エリア外運行も大きな要因となっており、本来の補完交通の役割を超えたものとなっている。持続可能な運行体制を確保するために、エリア外運行の拡大や継続には慎重な判断が必要であり、委員についてはこの事も念頭において、今後の在り方について議論をいただきたい。

会長 現実問題、利便性向上＝財源の問題がある。高齢者の移動手段の確保という使命は理解しているが、このことについても留意いただき、今後御意見等を賜れればと考える。

(2) 協議事項

- ① 東近江市地域公共交通会議に係る令和7年度収支決算（案）について
事務局から資料6に基づき説明

【意見・質問】

特に意見・質問なし。

- ② 路線バス及びちょこっとバスを対象とした国庫補助金の申請について
事務局から資料7に基づき説明

【意見・質問】

会長 公共交通会議の収支決算書で地域内フィーダー系統補助はあるが、路線バスを補助する地域間幹線系統補助は市が予算をみて補助している。公共交通会議の決算に計上されないものを地域公共交通会議で諮る理由はあるのか。

事務局 地域間幹線系統補助についても、補助金申請において、公共交通会議で協議を諮っていることが要件とされているためである。

6 その他

- ・ 東近江市近江鉄道・路線バス通学利用促進補助金制度について
事務局から資料8に基づき説明

- ・ ちょこっとバス停留所へのネーミングライツ導入について
事務局から別添資料に基づき説明
- ・ 道の駅奥永源寺溪流の里を拠点とした自動運転サービスの運行について
事務局から別添資料に基づき説明
- ・ 10月以降のちょこっとタクシー運行事業者の決定に係る書面決議について
事務局 から口頭で10月以降のちょこっとタクシー運行事業者が変更となった場合に書面決議により承認を伺うことになることの説明

7 閉会 挨拶（中村部長）